

おやじ東京2008 基調講演（2008年3月23日）

基調講演 「教師を振り回す親たち」 諸富祥彦氏（明治大学教授）

一方的に話をするのではなく交流の場としたい(お手本実演)

右手の人差し指同士をくっつけながら自己紹介&質問

じゃんけんをして勝ったほうが質問できる

会場全員同様のコミュニケーション

人間の集中力は**15分**がいいところですから、**15分**に一回くらいこんなことをやりますのでよろしくお願いします。

私はもともとカウンセラーで、不登校のお子さんの親とかの相談に乗っていました。

今もやっています。

どちらかという親の味方として活動してきました。

98年に大学院で留学して帰ってきたら学級崩壊が起きていました。

学校の教師だけでは解決ができないと専門家を入れ始めたので、留学で以前の研究を棚に上げていたこともあってそれにかかわり、**1年**で**50校**くらい全国の学校を回りました。

それまで学校のことを分かったつもりでいたんですが甘かったですね。

たとえば、始め騒ぎ出すのは**4〜5人**の子どもです。

先生がそれを追いかけてケアしている間にほかの子供たちが荒れる。

完全に人手不足ですね。

にもかかわらず当時のマスコミの論調は教師の指導力不足だと言っていました。

こんな状況で小学校の教師をやれと言われたら、正直私まったく自信ありません。

中学校や高校ならまだいいですけどね。

小学校の中学年の教師、あれを普通の人間がまともにこなせるはずがない。

小学校の教師をしていて何の問題もなく過ごせていたらただラッキーなだけです。

あまりに先生方がかわいそうだと先生方をサポートする運動が必要だと、1999年に「悩める教師を支える会」というのを作りました。

10年ぐらいたちますが今でも月に一回明治大学で先生方の駆け込み寺としてグループカウンセリングを開いています。

ほんとにぼろぼろの先生が来ます。休業中の方、うつ病から復帰して間もない方、そろそろ休職せざるを得ないかなという先生、そういう先生方の苦しみを聞いていると、教員の苦しみというのは大きく分けて4種類あります。

まず忙しさですね。10年前に比べると書類の量が2倍以上にはなった。

これはなぜかというところと教育改革やりすぎだからです。

先生方いろんなデータとか書類とか作らざるを得なくなっている。

コンピュータに向かっている時間のほうが生徒に向かっている時間よりも長い。それが現場の現実です。

二つ目、子どもたちが明らかに変わりました。

以前の子供は怒鳴るとビシッとしました。今の子供たちは軟体動物になります。これが幼稚園から大学まで大体同じです。

しかるとすごく傷つくけど、甘くするとつけあがる。

すごく指導しづらい。

三つ目に保護者の問題です。

今、やめたいという教員がすごく増えています。

東京都の女性の教員で定年まで勤務できる人はほとんどいません。

やめた直接の理由の8割が今日のテーマであるモンスターペアレンツの来襲です。

教員を辞めるだけではない、人間としての尊厳を奪われて、精神疾患に追い込まれて辞めていくんです。

そのように3重苦で大変な時に校長先生に相談に行くんです。

校長先生もいま大変なんです。

教育委員会・保護者・地域住民の対応に追われ、完全に中間管理職化しています。

特に東京の校長先生は孤立感が深まっています。

部下から慕われている校長というのはごくわずかです。
今日来てくださっているような方は大丈夫だと思うんですけど。
ある意味親分肌の校長がいなくなった。
例えばある教員が子供をビシッと叱った。
すると傷つきやすく学校行くのがいやだとなった。
そしたら親が刃物を持って乗り込んできた。
校長に相談したら「君も大変だね、がんばってくれたまえ」
翌日からうつ病になってしまいました。

大体15分経ちました。今までの話で感じたことでも話し合ってください。

それでは次にどういう親が増えているのかについて話します。
まず、お金のことです。
金銭がらみの話がすごく増えました。
私の住んでいる市川市では給食費払わないうちの子には給食だしません。
でも、ある市では2割の方が払わないで平気である。
学校の中で母親同士が「名にあなた、まだ給食費払ってんの？」
また、子どもが学校で暴れて保護者を呼んだら「今日はここに来るためにパート2時間休んできました、2時間分の時給をください」という親。
これは都心の流行かと思っけていますけど、最近増えています。
学校だけでなく病院でも公立病院の「税金払ってるんだから治療費いらねえだろう」と言う親が増えています。
こういう話は東京だけかと思っけていたら、北海道から沖縄まであるんです。
あるいは自分の子より下の成績の子が自分の子の希望していた学校に推薦で合格した。
それに対してどうしてうちの子を推薦しなかったんだと議員を使って騒いだ。
学校としては成績が悪かったら推薦できないんですよ。
またこれもお金が絡む話ですが、学校で子どもが怪我をして病院に連れて行ったら
「なんでかってに連れて行くんだ。しかも遠い病院でタクシー代8000円かかった。払ってくれ」
と言ってくる親がいました。

なぜこうなってきたかという、これは保護者だけの話ではなくて、日本人全体の劣化だと思うんですね。

とは言っても実はほんの一部です。

その一部がどのくらいいるかというと、千葉・埼玉でクラスに1人くらいです。東京・神奈川でクラスに2〜3人です。

学校で公演が終わった後先生から「いい講演ありがとうございました。でも、一番聴いてほしい親が、今日も来ていませんでした」

皆さんにこんな話しても申し訳ないと思うんですけど、一番聴いてほしい親は何やっても来ないですからね。

中学校で不登校の生徒さん、民生委員さんと連携して生存の確認からしなければいけない、こういったケースが非常に多いんです。

モンスターってわけじゃないけど生活に目いっぱい教育になんか目が向かないって親、何とかしなければいけないのはここにあるんじゃないかと思います。

モンスターペアレンツにも種類がありまして、グループで行うモンスターペアレンツと個人で行うモンスターペアレンツ。

グループで行うモンスターペアレンツは授業参観の後結成されることが多いんです。

実はファミレスで結成されるんです。

個人で行うモンスターペアレンツになる人は保護者同士で友達のいない人。

保護者会等で疎外感が募って家で愚痴をこぼす。

そして乗り込んでくるのがお父さんです。

最近一番たちが悪いのはお父さんです。社会でもまれている分余計にたちが悪い。

昔はお父さんが出てきたらうまく収めてくれると先生方安心したものです。

お父さんが抑止力になればすばらしい。

おやじ東京にはそんな風になってほしい。

肯定的な言葉、ごめんね・お願い・ありがとう、の三つのをキーワードにして

ください。